

も狭まり谷もV字になる。そして小滝が連続して高度を上げ、源流の趣きである。4mの滝とそれに続くナメ滝を2つ越えた所で地図上の分岐となるが、左の沢にはあまり水量がない。ここで休息をとり、右の沢を進む。最後の二俣も右をつめるが、ほどなく水も涸れ、急斜面のヤブこぎとなった。

高野さんが灌木をかき分けた所に私が身を滑り込ませるようにして続き、ラスト加藤さんが方向を確認しながら進む。20分ほどで尾根に出た。高野さんがパワーにものをいわせて灌木をかき分けてく

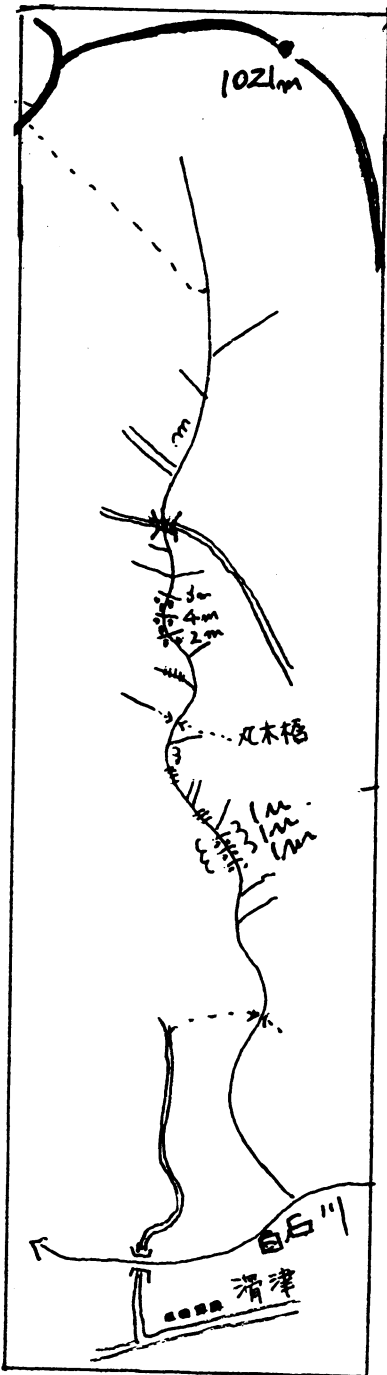
れるので、助かった。

尾根上も灌木で風が強く、これから下降する北西斜面はガスって見通しが悪い。寒いので、昼食もそこそこに、下降に移る。(記)

[タイム] 二俣(11:05)→沢終了(12:20)→尾根(12:40)

20日向沢(仮称)
白石川支流無名沢
1996年6月29日
L

1021 mのピークから派生した尾根から、南東方向をめざして下る。かなりの急斜面で、灌木にかまりながら200 m下降するが、水流は出てこな



い。さらに傾斜が緩くなった斜面を下るが、なおも水流は出てこない。向かいの斜面が近づいて来たあたりで、やっとめざす支流のほとりに出たが、もうかなり下った位置だった。

平凡なせせらぎを 40 分ほど進むと、林道に出合ってしまう。ここで林道に上がったのでは沢登りをした気がしないので、さらに下降を続ける。

やっと 3 m, 4 m, 2 m の滝が連続して出てくる。このあと少し下って丸木の橋をやり過ごすと、川床はナメになり歩きやすくなる。ナメ滝を越すと、この沢のハイライト、高さはないがそれぞれに深い釜をもつナメ滝が 3 個連続する。真中が手強く、フェルトのフリクションによって釜のへりを下降する。雰囲気はミニ中津川。植林地帯なので、暗い。

以後もナメが続き、歩きやすい。ナメが切れても、またすぐナメになる。平凡な流れになってしばらく下ると、また林道に出合う。ここで終了とし、林道に上がる。あとは白石川の本流にかかる橋を渡って、滑津の集落へと出た。

[タイム] 下降開始(12:50)→林道橋(13:55)→丸木橋(14:15)→林道・終了(14:50)→国道(15:10)

南会津只見川流域の沢

蒲生川支流岩茸沢

1996 年 7 月 27 日

L

林道歩きを覚悟していたが、林道のゲートは施錠されていなかったもので、林道終点まで送ってもらえ、1 時間は時間短縮となる。

林道終点より蒲生川本流までは踏跡があつて、これを利用して下降する。本流を進むとほどなく岩茸沢の出合。岩茸沢には手頃な滝が連続している。いずれの滝も直登でき、ルンルンで先に進む。

岩茸沢出合から約 1 時間で二俣となり、左俣を進む。ほどなく 5 m の滝がかかる。二瓶君は右岸を強引に突破するが、年よりはクリアーできず、左岸の捲きと